

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立高倉小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

ゆたかな心 たしかな学力 たかくらの子  
 ・考える子ども  
 ・助け合う子ども  
 ・やりぬく子ども

今年度の指導の重点

・あいさつと返事の定着と「四つのだいじ」を核とした心の教育の充実を図る。  
 ・学習意欲を高める工夫と家庭学習の習慣化を図るとともに、学習の進め方や指導方法の系統的・発展的なパターン化を行い、学力向上を図る。  
 ・運動量の確保と充実、季節に応じた体力づくりを推進し、体力向上を図る。  
 ・家庭や地域と連携し、ニーズに基づいた教育活動を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

<全国(小6)>

国語A、国語B、算数Aについては県・全国平均に比べ、正答率が高い。  
 算数Bは県平均より高く、全国平均並みの正答率であった。  
 国語Aでは「漢字」の読み書きで正答率の低い設問があった。  
 国語Bについては、ほぼすべての設問で、県・全国平均より正答率が高い。  
 算数Aでは四則計算が課題の一つとして見られる。  
 算数Bの記述式の問題は正答率が低く、無解答者が多く、課題がある。

<県(中1)>

すべての項目で、数学と理科は正答率が県平均より高い。  
 国語はすべての項目で過去4年間で最高値だが、「話す・聞く能力」以外は県平均にわずかだが届かない。  
 社会はほぼすべての項目が県平均以上だが、「資料活用の技能」は県平均に届かない。  
 数学はすべての項目で、過去4年間の最高値になっている。「四則計算の性質」は県平均に届かない。  
 理科はすべての項目が県平均以上になっている。

<特徴的な項目の数値>

- 国語Aでは、故事成語「百聞は一見にしかず」の意味と使い方に課題がある。本校33%(県44%)
- 国語Bでは、二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題の正答率が高い。本校83%(県46%)
- 算数Aでは、平行四辺形のかき方で用いられている図形の性質や特徴を選ぶ問題の正答率が高い。本校79%(県54%)
- 算数Bでは、示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求める問題の正答率が高い。本校96%(県82%)

【学習状況調査の結果】

全国(小6)

テレビなどの視聴時間は長いが、「3時間以上」の回答は県や全国の平均に比べるとやや低い傾向になっている。  
 「読書」の時間は、県や全国より長い傾向にある。  
 「人の気持ちがわかる人間になりたい」は全国平均より高いが、「いじめはいけない」は全国より低い。  
 「国語」「算数」が「好き」とか「大切」と感じている割合が高い傾向にある。

県(中1)

テレビなどの視聴時間は前年よりやや減少し、県平均に近づいた。  
 「各教科の解答時間は十分であったか」については、ほとんどの教科で県平均よりかなり高い傾向にある。  
 「読書時間」「あいさつ」は県平均より高い。  
 自己肯定感は県平均より低い。  
 困っている人をすすんで助ける、人の気持ちが分かる人になりたい等、県平均より低い傾向にある。  
 授業以外の学習時間(家庭学習など)は前年に比べ減少の傾向がある。  
 各教科の「好き」「よくわかる」と回答する児童は、県平均より低い傾向にある。

成果と課題

最後まであきらめずに取り組む姿勢の積み重ねが感じられる。(授業、集会、行事など)  
 全校的に学習規律が定着し、落ち着いて学習に取り組む環境が整ってきている。(授業改善、学校集団作り)  
 (全国学力テストでは)国語・算数ともに力が発揮され始めた。  
 (県学力テストでは)どの教科も緩やかに上昇してきているので、今後も丁寧な指導の継続に努めていきたい。  
 簡単な四則計算の正答率が低い。  
 漢字学習の前倒し学習は少しずつ効果が感じられるが、定着にはまだまだ継続的な指導が必要である。  
 朝のモジュール学習は子どもたちに定着し、集中力がついてきている。(月：漢字、火：計算、水：読書、木：計算、金：視写)  
 基礎基本の定着には、今以上にポイントを絞って取り組んでいく必要がある。  
 PTAの取り組みもありテレビ等の視聴時間はやや減少傾向にあるが、児童・保護者への声かけは続けていく必要がある。  
 自分の良いところを感じられる児童が少ない。  
 自分の考えを書くことは少しずつできるようになってきたが、相手を意識して「伝える」ことは大きな課題の一つである。  
 放課後学習「寺子屋・ひまわり」の効果も感じられるが、全体的に家庭学習の時間が不足気味で、予習や復習なども取り組みの割合が低い。

課題に対応した改善方法

落ち着いた学習環境を継続させ、基礎基本の徹底を図る。  
 自分の考えを書く、話す(説明する力)、伝える(相手を意識して説明する力)など、様々な自己表現の場を  
 学校生活の中に多く設定していく。そのために校内研修を大切にし教職員の授業力向上に努め、日々の授業に  
 いかしていく。  
 国語の音読大会(低・中・高)を「聞く人を意識した自己表現の場」として行う。  
 既習内容のつながりを大切にして、実態に応じた「振り返り学習」に取り組んでいく。(家庭学習・モジュール学習など)  
 放課後学習「寺子屋・ひまわり」が効果的に行われるように様々な環境づくりに取り組む。  
 到達度確認テストなどを効果的に行い、確実に定着を図る。  
 全教職員で児童理解に努めるとともに、学校行事などを通して児童の達成感・満足感を大切に自己肯定感が  
 高まるように努めていく。  
 家庭への積極的な情報発信(学級通信・学校だより)に努め地域・家庭の協力を得ながらテレビやゲームの時間を減らし、  
 家庭学習(予習・復習・読書)の充実を図る。  
 数値はあくまでも全体の傾向なので児童一人一人をしっかり見つけ、個々の子どものがんばりや伸びを大切にす。

取組の検証方法及び検証時期

児童へのアンケート実施。  
 校内研修学力向上部会へのテスト(学期始・学期末)の検証結果を利用する。  
 「学力向上部会」「体力向上部会」「健康とこころの向上部会」で連携を取り合い、情報共有に努め、日々の教育活動に  
 いかしていく。  
 家庭学習チャレンジシートの検証(各時期ごとに)  
 上記の結果を受けて、取り組みの見直しを随時図っていく。

達成目標(数値目標)

(全国学力テストについて)今年度の結果を大切にし、次年度も児童の理解力や表現力が発揮されるようにする。  
 (県学力テストについて)社会・数学・理科については、児童の理解力や表現力が今以上に発揮されるようにし、  
 国語は県平均を目指す。  
 「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童・生徒の割合を県平均以上にする。  
 テレビやゲームの時間を今以上に減らし、県平均以上にする。  
 家庭学習の時間を県平均に近づける。  
 各教科の「好き」「よくわかる」と回答する児童を、県平均に近づける。